

美馬市立江原中学校 学力向上実行プラン

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問や ICT の効果的な活用により、生徒の思考を深める授業の実践
- 深めた思考を認め合い、話し合い、学び合う場面がある授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 大野俊介	委員 校長 竹内寛泰	第1学年主任 大野 俊 介
	教頭 井手 智	第2学年主任 真 鍋 友 介
	教務 佐藤茂樹	第3学年主任 尾形 みゆき

校長

竹内寛泰

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

学び合いウィーク(教員同士の授業見学会等)により、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中は落ち着いて、真面目に取り組んでいる。 ○課題に真面目に取り組む、提出物は必ず提出するよう心がけている。 ●家庭学習が足りておらず、学習方法があまり身に付いていない。	・授業の目標を理解して見通しをもって学び、学習内容をノート等から振り返ることができる。 ・家庭学習で自主勉強ノートを有効に活用し、学力の確実な定着につながる学習方法を身に付ける。	・授業の目標や流れを黒板に可視化し、具体的に提示する。 ・ICTを効果的に活用することで、生徒の理解を深める授業づくりに努める。 ・自主勉強ノートを有効に活用できるように、個別にノート指導を行う。	・宿題以外の学習に取り組む時間を、設け自主勉強ノートに取り組む。 ・学習支援ソフトを家庭学習の課題として活用する。	・定期テストや実力テストの前に自分のノートを見直し、授業中の学習の復習をすることができた。 ・毎日の自主勉強ノートの提出が、全体の8割を超えており、学力の定着につなげることができた。	・学習支援ソフトを授業時間に有効に活用する。また、ICTを有効活用し、授業の形態に合わせて積極的に活用できるようにする。 ・ジャストジャンプ等のソフトを有効活用する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○多くの生徒が、朝学習の時間や昼休みに読書をしている。 ○基礎的、基本的な知識や技能を習得した上で、それを活用して課題を解決しようとしている。 ●文章の読解力が乏しい。 ●自分の考えを相手にわかりやすく伝えることが苦手な生徒が多い。	・言語活動を通して、自主的・主体的に学習を進めていくことができる。 ・自分の考えを、自分の言葉で伝えることができる。 ・表現力があり、相手に分かりやすく伝えることができる。	・授業の目標に合った学習形態(ペア学習やグループ学習等)を積極的に取り入れる。 ・授業の中で、自分の考えを表現する時間を設ける。 ・表現の方法を明示し、自分の言葉で伝えられるように支援する。	・全国学力・学習状況調査では、問題によって無回答がみられたので、改善に向けて努力する。 ・各教科で、授業のめあてと流れを明示し、「わかりやすい授業」を心がける。 ・テストで思考力を問う問題を増やすことで、力をつけさせる。	・テスト反省をして間違ったところや覚えていなかったところを学習し直し、次の定期テストや実力テストにおいて、無回答の答えが減り、諦めずに最後まで説く姿勢がみられた。 ・テストで思考力を問う問題を増やしたことによって、じっくり考えて解くことができるようになった。	・グループ活動を様々な場面で取り入れることを通して、コミュニケーション能力を更に高める。またプレゼンテーションを増やすことで表現力を伸ばしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に意欲的に取り組み、課題にも熱心に取り組んでいる。 ○学習内容に興味・関心をもち、課題解決に向けて努力しようとしている。 ●指示されてから行動する生徒がいる。	・自ら学ぶ意欲をもち、学ぶ喜びを実感し、目標達成に向けて努力できる。 ・課題の解決に向けて主体的に取り組む、自分の力で答えを導き出そうと努力する。	・毎時間、生徒が授業内容を振り返り、自己評価できる時間を作る。それにより、自尊心を高め、意欲を向上させる。 ・生徒の実態に応じた適切な課題を設定し、主体的な取組への意欲を引き出す。	・「家庭学習の友」の反省と目標を記入することで、自分の学習の取組を可視化し、随時振り返ることができるようにする。	・授業の中で振り返りの時間を必ず設け、学習状況の確認をすることができた。 ・生徒一人ひとりが、目標に対して振り返りの時間が取れた。	・学校や家庭学習での習慣が定着していない生徒には、個別に対応し、課題の解決に努める。

令和4年度 学力向上ロードマップ

